

---

## essais ころみ New 2025年11月

---

2025年11月4日（火） 晴から曇

昨日木枯らし一号が吹いたそう。そのわりにはそんなに寒くなかった。今朝は10°C台の気温ですすがにひんやり。昨日完全に衣替え。

— 新しい「ためし」 —

前回書いたように、時間も限られてきたので、学びの相乗効果を図りたい。本の音読して、考えて、書いてまとめる流れをつくろうかと。

いま読んでいるのは『易経』、ふらっと寄った古書店でたまたま見つけて買った新書サイズの本。

たぶんこの本がよかった。翻訳監修者たちのスタンスがしっくり合った。たとえば、「解題」の初めに書かれている以下。

易経は神聖な経典でもなければ、神秘を説く奇書でもない。読む人ひとりひとりに、自分の頭で考えることを教える書物である。

易経の言葉は一つのヒントである。人はそのヒントから自由に連想を働かせて自分の持っている問題を考えねばならない。

そうしてはじめて易経を現代に生かすことができるのである。

さらに次の箇所がふるっている。良い本にあたったと感じた。安心して読み進められる気になった。

易経の解釈は、時代の要請に従ってさまざまに変化してきた。これからも変化するであろう。

易経は本質的にさまざまな解釈を許すものだからである。われわれもまた現代に生きるものとして、われわれなりのに解釈する自由がある。

何らかの権威にすぎることによって満足する者は、易経を現代に生かすことはできない。

本の冒頭にこのようなメッセージがあったので、六十四卦まで読むことになったのだと思う。

「解題」と「繫辞上傳」「繫辞下伝」は音読し終えた時に、自分なりに大事とおもう箇所はノートした。

六十四卦はほぼ半分読み終えたところだが、残り半分を読みながら、読み終えたものをここで見直そうと思う。

たしかに「ヒント」たくさんある気がするから。このessais（ためし）の新しい「ためし」にしようかと。